教科等横断的な視点を取り入れた授業実践

生　活　科　　第１学年

《教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成》

○　学習の基盤となる資質・能力の育成について

・言語能力の育成

本実践では、主に国語科を通して獲得してきた語句や書く・話すといった技能を活用して、思ったことや感じたこと等を豊かに表現できるようにする。そのために、各教科等で学習した言葉の意味や使い方について丁寧に扱ったり、児童から出てきた表現を積極的に共有できるよう工夫したりすることで、児童の語彙を量と質の両面から充実させていく。とりわけ生活科では、身近で生活に根ざした語彙に着目する機会が多いため、指導内容と関係する語句や表現方法について丁寧な教材研究を進めていく。これは、「小学校学習指導要領国語編」〔知識及び技能〕第１学年及び第２学年（１）オ「身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。」にも対応していることから、教科等横断的な視点をもちながら、学習で扱った語彙を理解語彙に留めることなく、使用語彙としていけるようにする。

・情報活用能力の育成

本実践では、タブレット型パソコンを使用し、発見したものを画像として保存していく活動を行う。多くの情報をその場で処理し、記憶していくことの難しい低学年の児童において、見たものを情報端末に画像として記録し、後からでも情報を引き出すことができることは、児童の気付きをさらに豊かにするために効果的な方法だと考える。

また、国語科の学習においても、写真や図等の「非連続型テキスト」の情報を活用する能力が大切にされており、「小学校学習指導要領国語編」でも「情報の扱い方」という内容が新設されている。生活科と国語科との横断を意識しながら ICT を活用していくことで、情報を収集、整理、分析、活用する情報活用能力の育成を目指していく。

・問題発見・解決能力の育成

本実践では、体験活動と表現活動を往還させながら学びを深めていく単元を計画し、主体的に問題を発見し、解決する資質・能力の育成を行う。「秋」について実生活や幼稚園・保育園等での経験を想起させ、「秋といえばどんな事柄やものがあるか」「秋について調べてみたいことはないか」といったことについて話し合わせることで、学習課題を見いださせ、自分たちで解決していこうとする思いをもたせていく。体験活動では課題についての気付きや発見ができるように、表現活動では相手意識をもちながら自身が感じたことを絵や文章で伝えることができるよう工夫する。特に、表現活動では感じていることを上手く表現することができるように、覚えた言葉や撮りためた画像からの情報をつなぎ合わせることができるように指導する。

１　単元名　「あきとなかよし　～あきからいろんなことをかんじとろう～」

２　単元の目標

秋の自然を見付けたり、遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

３　教科等横断的な視点を取り入れた授業実践について

（１）単元で育てたい力

○秋の自然の特徴やよさについて、表現することができる。【生活：言語能力】
○秋の自然物を使った遊びを考え、相手に楽しんでもらえるように遊び方やルールを説明することができる。【生活：言語能力、問題発見・解決能力】
○情報端末を利用し、発見したことを画像として残すことができる。【生活：情報活用能力】

（２）教科等横断的な視点に立った育てたい力

○秋の自然を体験したことから必要な事柄を取捨選択して様々な表現を使ってレポートを書くことができる。【国語：言語能力】
○見つけた「秋」をつかっていろいろな遊びを考えて作り出すことができる。【図画工作：問題発見・解決能力】

（３）共通の育てたい力

○単元を通して気付いた秋の自然の特徴から、自分が調べたりつくったりしたいものを選んで自分の考えを相手に伝えて、振り返りをすることで秋に対する考えを深めることができる。【共通：問題発見・解決能力】

（４）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①秋の自然や昆虫を観察したり関わったりする活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化、季節によって生活の様子が変わることを理解している。 ②秋の自然物を探す活動を通して、自然の特徴やよさを理解している。	①秋の自然や昆虫を観察したり関わったりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを表現している。 ②秋の自然物を使って、遊ぶものを工夫してつくったり、友達と楽しく遊ぶために方法を考えたりして、それを表現している。	①秋の自然や昆虫を観察したり関わったりする活動を通して、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしている。 ②身近な自然の中から、進んで秋を見付けようとしたり、落ち葉や木の実を使って、友達と楽しく遊ぼうとしたりしている。

４　指導計画

時	学　習　活　動 ★教科等横断的な学習活動	備考 ★教科等横断的な学習 ◎記録に残す評価 □学習状況の確認
1	まちにあきがやってきた 「あき」をたくさんみつけよう ○秋にはどんなことがあるか話し合う。 ○秋について調べたいことを発表し合う。 【見いだす】	□主体的に学習に取り組む態度 ①【行動観察・発言分析】 ・秋について、春や夏の学習と比較しながら様々なものに関心をもって関わろうとしている。【問題発見・解決能力】
2 ～ 4	どんないろ　どんなにおい　どんなおと あきってきれいだね みつけた「あき」をともだちにわかりやすくつたえよう ★感じたり見つけたりした秋についてレポートにまとめて伝え合う。【国語】【自分で取り組む】	◎思考・判断・表現 ①【行動観察・記述分析】 ・公園で秋について五感を使って感じ取ろうとしている。 ★レポートにまとめたことを友達に順序立てて伝えることができる。【言語能力】

	 ○公園に行って秋を感じ取る。 ○公園で見付けた秋について、体を使って体験する。	
5 ～ 6	いろいろなあそびができるね みつけた「あき」をつかっていろいろなあそびをかんがえて作り出そう ○公園で体験したことを振り返る。 ○集めた葉や実を使ってできる遊びや遊び道具を考えたり、調べたりしてつくる。 **★材料の色や形からどんな遊びができるかを考えたり調べたりして、遊び道具をつくる。【図画工作】【広げ深める】**	◎知識・技能 ①【行動観察・発言分析】 ・体験したことを基にしてどのような遊びができるかを見付けることができる。 **★見付けた秋の自然（葉や木の実など）の色や形に着目し、どのような遊びをすることができるか考えたり、調べたりしている。** **【問題発見・解決能力】**
7 ～ １１	じょうずにできたよ あきのあそびめいじんになろう ○どの遊びを発表するか話し合う。 ○友達や家族にどのように伝えたら分かりやすいか話し合う。 ○友達や家族に発表するための準備をする。 **★秋の自然（葉や木の実など）を使って考えた遊びについて友達や家族に分かりやすく伝える。【国語】【まとめあげる】** ○発表したことを振り返り「あきとなかよし」のまとめをする。	◎主体的に学習に取り組む態度 ②【行動観察・発言分析】 ・自分の発表する遊び道具について具体的に説明している。 ・相手の目を見て話すことができる。 ◎思考・判断・表現 ②【行動観察・記述分析】 ・相手を意識した言葉を選んで発表することができる。 【言語能力】 **★秋の自然（葉や木の実など）を使って考えた遊び方やその楽しさを順序立てて話すとともに、言葉や絵、動作などを工夫して伝えることができる。** **【言語能力】** ◎知識・技能 ②【記述分析】 ・学習したことを生かして秋についてまとめることができる。 【問題発見・解決能力】

５　実践

（１）目指す児童の姿

・学習の基盤となる資質・能力育成について

ア　言語能力の育成（第４時）【国語】

（ア）児童を見取る際の主なポイント

生活科は具体的な活動や体験を通して学び、自分と自然との関わりや触れ合いから生命を大切にする心を育んでいくことができるようにすることが大切である。また、自分の気付きや考えたことを豊かに表現していくことも大切な視点である。

季節の変容により自然の様子も変化することや、秋の自然ならではのよさに児童が気付き、言葉を通して表現することができるかに着目して授業を行った。

第４時は、みんなで公園探検をした後の活動である。どのように秋について伝えていくのか、また、どのようなものを選べば相手に伝わるのかということについて１年生なりに吟味している姿を見取っていく。子供たちが五感を生かして、秋の「何を」「どこで」発見したのか等について言語化する際には、国語科と関連付けた「語彙表（オノマトペ）」を活用して、分かりやすくイメージを喚起するような表現になっているかどうかに着目した。

（イ）指導と評価の実際

①第４時の授業の概要

前時では、公園には「どんな色があったのか」「どんなにおいがあったのか」「どんな音があったのか」などを「こうえんたんけん☆ビンゴ」で確認した。

今回の学習は、公園探検で自分が体験してきた「秋」をどのように伝えていくかがポイントとなる。各児童が体験して発見したことから、どの内容を選びまとめるか、どのようなことを伝えたいかを考えた。

②実際の児童の姿

第４時では、児童が公園で捕まえた虫や取ってきたものを目の前で観察できるよう、各班で観察したいものを一つ選ばせ、じっくりと対象と向き合うことができるように工夫した。こうすることで、自分の班が収集してきた物だけでなく、他の班が収集してきた物も観察することができた。観察の際には、休み時間等に自由に見るのとは違い、ポイントを絞って観察することが大切であることを掲示物等で伝えた。児童は、「色」「におい」「音」などといったポイントに沿って、五感を通して様々な気付きを得ていた。

その後、気付いたことを文章と絵でレポートに表現した。まず文章を書き、次に絵を描くという「カードのかき方」の順序を明確にし、文章を書く際には、「①観察して気付いたこと」「②皆に伝わるような表現」「③語彙表を用いた工夫された表現＝オノマトペ」を意識するよう指導した。これらの観点を意識させながら文章を書かせたことで豊かな表現活動を行うことができた。

○「おおむね満足できる」状況と評価した例

レポートに表現された文章や絵を評価対象とした。「観察して気付いたこと」について、「色」「におい」「音」などといった五感を通して得た気付きを文章として書いたり、「色」「形」など視覚的な気付きについて絵に描いたりすることができている児童を「おおむね満足できる」状況と評価した。

とんぼは、大きなはねが４まいついています。めがとてもおおきいです。

○「十分満足できる」状況と評価した例

「観察して気付いたこと」について、「色」「におい」「音」などといった五感を通して得た気付きを文章として書いたり、「色」「形」など視覚的な気付きについて絵に描いたりすることができているだけでなく、オノマトペに関する語彙表をもとに、自分の気付きがより明確に伝わる表現を行っている児童を「十分満足できる」状況と評価した。

ぼくがみつけたおちばは、メラメラともえるようにあかいです。 さわるとカサカサとおとがして、つかむとぱりぱりっとこわれてしまいます。

○「努力を要する」状況と評価した例

「観察して気付いたこと」を表現することができていない児童については、授業者との対話から体験活動で感じた事を想起させ、目の前の観察物から気付けることを話させることで、文章を書く支援をしていく。

イ　言語能力の育成（第１０時）【国語】

（ア）児童を見取る際の主なポイント

生活科は具体的な活動や体験を通して学び、自分と自然との関わりや触れ合いから生命を大切にする心を育んでいくことができるようにすることが大切である。第１０時は、秋にあるものを使って遊び道具を作成し、発表会を行う活動である。ここでは、本校行事であるわくわくワールド（学習参観）とリンクして、友達や家族に対して、遊び道具を使って秋について学習したことを伝えることができているかどうかに着目した。ただ、遊んでもらうだけでなく、秋の道具を用いるよさや楽しさについても伝えられえるように、言葉や絵、動作など様々な方法をどのように用いているかを見取ってきた。

（イ）指導と評価の実際

①第１０時の授業の概要

秋について学んだことを友達や家族に発表する活動である。対象を子供と大人に設定することで、伝え方や関わり方に違いがあることや工夫が必要であることに気付かせた。伝える際には、「遊び方」だけでなく、遊びをつくるために「したこと」「見たこと」「話したことや聞いたこと」「遊びの楽しさ」「思ったこと」などを順序立てて、分かりやすく伝えられるように指導を進めた。

また、遊び道具の違いによって発表内容の共通点や相違点があることについても気付かせる。多様な人との関わりを通して、伝える楽しさや面白さを実感できるようにするとともに、相手に応じた言葉を選ぶ意識をもつことができるようにした。

また、友達同士で発表を聞き合うことで、互いのよさを認め合い、友達のよいところをまねたり参考にしたりできるようにする。本単元の学びを、学校生活の様々な場面でも生かせるように声掛けを行い、積極的に友達と関わることで多様なつながりの大切さを意識できるようにした。

②実際の児童の姿

第１０時は、一人一人が主役になって友達や家族に表現したことで、自分のよさや可能性に気付き、自信を付けることができたと感じた。簡単な遊びの説明であっても、入学して半年の児童にとっては大きな挑戦となった。自分たちがつくった秋の遊びで、友達や家族を満足させるためにはどのように説明したらよいのかについて、話合いを通して試行錯誤しながら考えることができていた。

発表会の当日は、児童一人一人が自信に満ちて活躍する姿があった。具体的な活動や初めての体験、挑戦を通して、新たな技能を獲得したと考える。

○「おおむね満足できる」状況と評価した例

発表内容を考えるための話合いの様子を評価対象とした。学級内全ての話合いを同時に評価することはできないため、タブレット型パソコンの録画機能を用いて、各グループの発表内容を記録して評価を行った。

公園探検などの具体的な体験をもとに自分の考えを伝えることができ、班の友達と協力して作業を進め、遊びに必要なものを作ることができた児童を「おおむね満

足できる」状況と評価した。

○「十分満足できる」状況と評価した例

自分の考えを伝えるだけでなく相手の考えをしっかりと聞き、建設的に話合いを行うことができる児童や、相手に分かりやすく伝えるために説明の順序を考えたり表現を工夫したりしている児童を「十分満足できる」状況と評価した。

○「努力を要する」状況と評価した例

自分の考えを話合いで伝えることができない児童については、授業者がこれまでの学習内容等をもとに考えを引き出したりする等の支援を行った。

ウ　情報活用能力の育成（第２～４時）【国語】

（ア）児童を見取る際の主なポイント

本単元では、秋の自然を学ぶために公園探検を行った。第２・３時は、公園で見付けたどんぐりや枯れ葉などの秋の自然を、タブレット端末で撮影しレポートにまとめたものをもとに、友達に分かりやすく伝える活動である。

「情報収集」に関するポイントとして、児童が公園でどのようなものを撮影したかに着目した。昆虫や植物など、それぞれの児童がどのように秋に関連したものを収集しているのかをクラウド上のフォルダから確認した。

「情報整理・分析」におけるポイントとして、写真や実物の観察を通して五感による情報の整理ができているのかに着目した。

「情報活用」におけるポイントとしては、画像として記録した「秋」を振り返った、互いに共有したりしながら、レポートや遊び、発表に生かしていけるかどうかを成果物等から確認するようにした。

（イ）指導と評価の実際

①第２～４時の授業の概要

公園探検を通して、秋の自然を収集し秋の特徴やよさをまとめる活動である。実際に集めたどんぐりや枯れ葉などを写真に撮り、データで保存することの有用性に気付かせた。また、収集した秋の自然について五感を用いて分類・整理することが、相手に分かりやすく伝えることにつながることを意識させた。児童らは撮影した秋の自然の写真データを互いに見せ合いながら話し合ったり、データを共有することでレポートの作成に役立てたりしていた。

②実際の児童の姿

２～４校時では、秋の自然の実物を撮影しデータ化することは、情報を共有する上で有用であると児童らが感じることができた。また、分かりやすく伝えるためには情報を整理することが必要であるということも気付くことができていた。情報を整理しまとめる作業を通して、児童の資質・能力を伸ばすことができた。

○「おおむね満足できる」状況と評価した例

成果物や話合いの様子等を評価対象とした。自分で見付けた秋の自然の実物や写真などについて、五感を用いて分類した上で自分のレポートづくりを行っている児童を「おおむね満足できる」状況と評価した。

○「十分満足できる」状況と評価した例

自分で見付けた秋の自然の実物や写真などを分類し、これまで学習した春や夏の情報や他の児童の情報と比較したり組み合わせたりして、自分のレポート作成に活用することができた児童を「十分満足できる」状況と評価した。

○「努力を要する」状況と評価した例

自分で見付けた秋の自然の実物や写真などを用いながらレポート作成ができない児童については、これまで撮りためた写真等を振り返らせながら、授業者による対話

を通して情報を選択させるといった支援を行った。

エ　問題発見・解決能力の育成（第１・５・１１時）【図画工作（５時）】

（ア）児童を見取る際の主なポイント

体験と表現を相互に行うことで、身近な生活に関する問題発見・解決能力を育むことが大切である。これまで行ってきた春や夏についての学習においても、児童と話し合いながら、季節に関する課題を見付け、それを解決するために体験活動を行うという学習過程を大切にしてきた。

本単元においても、第１時で春や夏の学習を振り返ることで、季節の移り変わりによって自然の事象も変化していくことを再確認した。その上で、新しい季節である秋について、児童がどんなことを不思議に思ったり、調べたいと思ったりしているのかを自由に発言させることで、児童の課題意識に目を向けることを大切にしてきた。第５時で様々な体験活動と表現活動を往還的に行いながら課題解決を進めていく過程で、児童の気付きや表現の質がどのように変容していくかに着目しながら授業実践を行った。

（イ）指導と評価の実際

①第１・５・１１時の授業の概要

第１時は、課題発見に関する学習を行った。春や夏の学習を振り返ることで、見通しをもって秋の学習に取り組む活動を行った。春や秋で見付けた自然をもとに、季節の変化による自然の変化を再確認した。その上で秋における自然の変化について予想したり話し合ったりすることで、児童が主体的に体験活動を計画することができた。

第５時は、課題解決に関する学習を行った。わくわくワールド（学習参観）とつなげることを児童に伝えることで、目的意識や相手意識を明確にもたせた上で秋遊びに主体的に取り組ませた。自分たちが見付けた秋の自然（葉や木の実など）の色や形に着目し、その特徴を用いてどのような遊びをすることができるのか考えて、遊び道具をつくる活動を進めた。さらに遊びを深め楽しむには、どのような道具があるとよいか調べたり、話し合ったりすることで課題解決能力の育成を進めた。

単元末の第１１時は、課題解決の過程を振り返る学習を行った。単元を通して行ってきた体験活動で発見したり考えたりした秋の自然や、自分達で作り出した秋遊びについて振り返ることで単元全体での自らの学びを客観的に捉えさせた。

②実際の児童の姿

以下には第１１時の内容について記載する。

○「おおむね満足できる」状況と評価した例

単元を通して学習してきたことについて振り返りを記入するワークシートを評価対象とした。それぞれの活動を思い出し、体験活動や表現活動を通して、分かったことやできたことなどについて振り返りを記述することができている児童を「おおむね満足できる」状況と評価した。

○「十分満足できる」状況と評価した例

単元を通して学習してきたことを関連付けながら振り返ったり、冬の学習への見通しをもったりすることができている児童を「十分満足できる」状況と評価した。

○「努力を要する」状況と評価した例

観点に沿っての振り返りをすることができない児童については、授業者との対話や成果物の確認などを通してこれまでの学習内容を思い出させ、記述の支援を行った。

（２）実践を終えて

１　学習の基盤となる資質・能力育成について

言語能力の育成では、児童が具体的な体験をすることで見付けたり、比べたり、例えたり、試したり、工夫したりなどの多様な学習活動をすることができた。多様な活動では理解語彙にとどまらず使用語彙として語彙の活用ができた。

本校使用の「語彙表」や本校が日課表に位置付けている「書く時間」「１０分間読書」も功を奏したと考えている。

また、言語能力向上を意識した授業展開になるよう工夫した。言語は学習の基盤となる資質・能力であり学習活動を支える重要な役割を果たすと考え今後も意識する。

情報活用能力の育成では、タブレット型パソコンを活用した。日頃から計画的に学習の基盤に必要な情報収集手段の操作技術を身に付けようと進めてきた。児童は本スキルを活用して情報処理ができるようになっている。

問題発見・解決能力では、自分が伝えたい内容のどこを変えたらもっとよくなるか、自分で考えて解決に向かうプロセスを大事にした。その過程でも、情報を収集し、整理し、考えながら解決するスキル、様々な語句のまとまりを意識して使うスキルが求められた。

本実践を通して、上記の三つの資質・能力について、児童の気付きを確かなものにできたと思うので、今後、気付いたことを様々なことに関連付けていけるように支援したいと考えている。

２　教科等横断的な視点に立った評価について

実践校では３年間国語科「書く」を研修してきた。市の学力調査の結果から、本校児童が書くことを苦手としていることが明白になったからである。そこで、今回の生活科の実践をするにあたって、特に国語科「書く」の教科等横断的な視点で指導できないかと考えた。

本校児童が全教科において活用している「語彙表」をもとに、観察したことや考えたこと等を語彙表の語彙を活用して自分の力でまとめることができるようにしたいと考えた。

「公園で秋をみつける」という共通体験をした児童に最初に発見したことを発表させたところ、「赤い葉っぱがあった、ダンゴムシがいた、実が落ちていた。」などのありきたりの言葉があがった。

そこで、もっと詳しくよく分かるようにという助言で「赤いギザギザした葉っぱがあった、黒いダンゴムシが石の下で丸まっていた、大きな木の下に黄色い葉っぱと一緒に丸い茶色の実が落ちていた。」のように変容した。

次に、本校の「語彙表」を活用して表現するようにすると、「手袋のような形のギザギザの赤と少し黄色が混ざった葉っぱがあった、黒いダンゴムシが石の下でまるまっていたので捕まえようとしたら、ころころ転がって落ちて逃げてしまった、大きな木の下の黄色い葉っぱと一緒に落ちていた実は、ぽとんぽとんといっぱい雨みたいに落ちてきた。」と書かれていた。

このような表現の変化は、活動や体験を通して学び、心身を思いっきり使って実感したことで表現の幅が広がり、その思いを国語科と関連させたことにより生み出されたものだと考えた。生活科による充実した体験活動と国語科を関連させた結果、児童の言語表現の意欲を引き出すことができた。

本校の教室環境もまた、教科等横断的な視点に立った評価が高い理由となっている。本校は、４月新築校舎に引っ越しをしたばかりである。教室はどこも３面のホワイトボードにより構成されている。文字を学び始めた当初はなかなか活用できなかったが、今では児童が個人用ホワイトボードマーカーをもって、ホワイトボードに自分の考えを書き友達と共有できるまでに成長した。

児童は本来、主体的に学びを進めたい欲求をもっているものである。その学びの欲求を、本校の教室環境と生活科と国語科との横断的指導で実現させることができたと実感している。